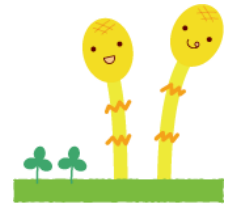


教育研究員の感想

第1回の所長講話のポイントは、「縁を生かす」とおっしゃっていましたが、本当に心に響くお話をいただきました。ある教師がどうしても好きになれなかった少年の生い立ちを知り、胸に激しい痛みが走ったというところは、思わず私も心が痛みました。これまでの教え子の顔が浮かび、申し訳ない気持ちがこみ上げてきました。その子の担任をしている間も、苦手意識を拭えないことに対して解決策はないか悩んだこともありました。しかし、人間だから合う・合わないってあるのは当たり前と、どこかあきらめている部分もありました。今日のお話を聞いて、これは必ず解決しないといけない課題だと痛感しました。担任として、子ども達に与える影響の大きさと縁あって関わっていく子ども達に対して謙虚に向き合うことの大切さを肝に銘じて、課題解決の手立てを見つけていきたいと思えます。



入所式でも感じましたが、所長のお言葉や眼差しにはとても温かみがあり、一つ一つの言葉が心に染み入ってきます。講話内容を振り返ったり、紹介された図書を読んだりしながら、自分のものにしていけるようにしたいです。

(上原馨)

今日の所長講話では、「小さな人生論3」(致知出版社)、「プロの条件」(致知出版社)、「日本の教師に伝えたいこと」(ちくま学芸文庫)、「教えるということ」(ちくま学芸文庫)では、教師の在り方について、共通していることが多いように感じました。



先日、羽根田主任から「魅力ある保育者たち」高杉自子著(ひかりのくに)をお借りして、読んだことと似たような所があり、教師の理想であるように人間性について、考えさせられました。

また、このような人になりたいと思えました。研究所にきて、まだ4日しかたっていないのですが、私にとって初めて聞く言葉だったり、良い驚きの連続でした。学んだことが多すぎて、整理できていない自分があるので、先生方に教えていただいた本を時間工夫して読んで自分に身につくようにしていきたいと思えました。

(金城睦子)

今日の所長講話の冒頭で、「毎朝、駐車場に車を止めた時、何か気づいたことはありますか?」と聞かれたとき、一瞬頭の中が真っ白になってしまいましたが、よく思い出して考えてみると、気づくことはたくさんあるのだと思えました。これまでの私の教え子達のことを思い出してみると、たしかに今思えば、あの子がこんな事をしていたと思う子や、あんなにいい子も、あんな悪戯をしていたなど思い出すことがあります。「あの時、あの子のこんな所に気づいてあげることができていたら・・・」と悔やむこともありました。「気づく」ことの大切さを、改めて考えることができよかったです。研修期間中に、もっと気づき力を高められるよう頑張りたいと思えます。



(仲門学)

所長が、今日の講話で「縁を生かす」を読んでくださり、ここに教育の原点があるとされたとき、自分は22年間の教員生活の中で19回も担任として生徒と関わり、教師の醍醐味をたくさん味わえた事の幸せを実感しました。

「教師が成長している事が生き生きとした教室を作る」というお話もあったので、生徒のために力を付けたいと決意して研究所を希望した初心を忘れず、目標に向かって「できない」という視点からではなく、「どうしたらできるか」を考えて半年間頑張ります。



ご指導よろしくお願いたします。

(横田純子)